

- 1 茅野市八ヶ岳総合博物館の展示は、今後いかにあるべきか。

- 2 今後の茅野市における科学教育の振興はいかにあるべきか。

答 申 書

平成24年2月8日

茅野市博物館協議会

展示替え専門部会

科学教育検討専門部会

茅野市博物館協議会専門部会委員 様

諮 問 文

1 茅野市八ヶ岳総合博物館の展示は、今後いかにあるべきか。

【理由】

昭和 63 年 10 月に開館した茅野市八ヶ岳総合博物館は、開館から 20 余年が経過したが、その間大幅な展示替えを行うことがなかった。特に自然科学関係の展示については、開館後の環境の変化や研究の進展により、実情にそぐわなくなってきた。また、展示の方法等を変えることによって、さらに市民の理解や利用が進むものと考えられる。

そこで、茅野市八ヶ岳総合博物館の自然科学系の展示について今後いかにあるべきか、研究・検討をお願いしたい。

2 今後の茅野市における科学教育の振興はいかにあるべきか。

【理由】

茅野市八ヶ岳総合博物館は、地域の総合博物館として「八ヶ岳山麓の自然と文化」をテーマに資料の収集・保管を行い、常設展示のほか、各種の企画展・講座等を開催してきた。しかしながら、豊富な自然が身近にあるためか、市民の自然科学・科学教育への関心は高まっていないのが現状である。また、「子どもの理科離れ」が叫ばれており、すでにその影響は親の世代、教師の世代にまで広がっている。

こうしたことから、諏訪東京理科大学等との連携や体験学習を主体とする今後の茅野市における科学教育の振興はいかにあるべきか、研究・検討をお願いしたい。

平成 23 年 5 月 19 日

茅野市教育委員会

答 申

平成 24 年 2 月 8 日

茅野市教育委員会 様

茅野市博物館協議会専門部会

前 文

平成 23 年 5 月 19 日付けで茅野市教育委員会より諮問を受けた内容について、展示替え専門部会、科学教育検討専門部会の 2 つにわかれ、それぞれ 8 回以上にわたり検討、協議を重ねてきました。

茅野市八ヶ岳総合博物館（以下、八ヶ岳総合博物館）は、地域博物館として地質時代から縄文時代・現代に至る自然・歴史・文芸等に渉る総合的な事象が展示されています。その中で、開館以来 20 余年となる自然科学系常設展示物の内容や展示方法については、その後の環境の変化や自然科学研究の進展等により、今日的視点からの検討改善が求められるに至りました。

そこで展示替え専門部会では、地域博物館としての八ヶ岳総合博物館の設立主旨を確認の上、自然科学系常設展示物の内容や展示方法の改善について、来館者の視点に立って、以下の各項に渉る検討協議を行ってきました。

- 1) 自然科学系常設展示の今後のあり方
- 2) 自然科学系常設展示物の改善の方向
- 3) 常設展示物の分野別改善案の作成提示
- 4) 博物館施設の拡充・増設の必要性
- 5) 学芸員の配置と市民ボランティア制度導入の重要性

現在、全国的に子どもの理科離れ傾向が憂慮されています。茅野市においても同様に子どもの理科離れや教職員の理数系教育に関する今日的な課題とその解決方法についての情報の不足が心配され、その現状を打開するための方策の検討は喫緊の課題となっています。また、文部科学省による新しい学習指導要領においては、子どもたちに科学的な見方や考え方を育成するための観察・実験

の重要性が示されています。

科学教育検討専門部会では、これらの社会的要請、背景を受け、社会教育、学校教育の一環を担ってきた博物館においても、人づくりの観点から実験や観察などを通して、自然科学の面白さを体験できるような展示や企画が必要であり、将来的展望を含めて再検討する必要性を共通認識とし、以下の検討を行いました。

- 1) 博物館活動における教育活動への有効な寄与を行うための体制強化。
- 2) 不足している学芸員の補強を目的として、公民協働の精神に沿った市民学芸員制度の創設。
- 3) 教員の研修、自主研究、科学教育振興を目的とする科学教育センターの設置。
- 4) 子どもたちに親しまれる博物館のあり方。
- 5) 博物館機能を市民の生涯学習に有効に利用するための公民協働のあり方。
- 6) 地域の知識を有効に利活用するための周辺研究機関・大学等とのネットワークづくり。

以上の様々な視点からの議論により、茅野市の科学教育振興における八ヶ岳総合博物館の将来構想について議論してきました。

それぞれの専門部会における各回の議事録と資料は別に付します。

茅野市が「市民プラン」で目指す「人づくり、まちづくり」を進めていくには、八ヶ岳総合博物館は地域にとって欠かせない社会教育機関であると共に、学校教育にとっても重要な科学教育*¹の場でもあります。私たちは今後も継続して、郷土のことを知り、郷土に愛情・愛着を持ち、自らの郷土を誇れる人材育成の拠点として八ヶ岳総合博物館を育てていかなければなりません。

しかしながら、これまでの八ヶ岳総合博物館は、昭和58年3月に策定された「茅野市総合博物館基本構想」（以下、基本構想）に示された理念を実行するための活動が十分に行われてきたとは言いがたいものがあります。その原因の一つとしては、自然科学に造詣の深い学芸員が十分に配置されてこなかったことによるところが大きいと考えられます。また、基本構想で示された実物資料の

収集や基礎的研究なども行われてきませんでした。

今後は基本構想に示された理念を継承、発展させ、時代に適合した展示構想と、新たに課題となってきた市民への理科・科学の普及について公民協働の精神に基づいて博物館の運営、企画を行うことが期待されます。

個々の課題については以下に示します。

1.茅野市八ヶ岳総合博物館の展示は、今後いかにあるべきか。

展示替え専門部会に諮問された検討対象は、八ヶ岳総合博物館の自然科学系常設展示替えです。その検討にあたっては、基本構想の目的・性格・事業の主旨を前提として検討協議を重ねてきました。

その過程で、今後における自然科学系常設展示のあり方、展示物の内容・方法の改善方向とその改善案、施設の拡充・増設、来館者の学びの場として機能する八ヶ岳総合博物館の存在価値を高める人的配置等について、以下に述べるような結論に至りました。

(1)自然科学系常設展示の今後のあり方

- ① 地域博物館としての独自性が生かされ、来館者が茅野市の郷土を中心とした自然事象に関心をよせ、知的探究心を触発・充足・育む展示に心がけること。
- ② 八ヶ岳総合博物館が独自のテーマをもち、来館者にとって生涯学習*2の施設としての学び・体験・憩う場となり、また内外の学術研究の場として、館の存在価値を高めていく展示となるよう努めること。
- ③ 八ヶ岳とその山麓地域の自然を博物館のフィールドとし、館内展示物が野外の観察学習・フィールドワークの契機となるよう工夫すること。
- ④ 展示されている自然事象や収蔵資料が、「モノ」としての展示から「物語性」のある展示に、さらに「モノ」と「物語性」との共存のあり方や、触れて体験し学ぶ知の蓄積が満たせる工夫が随時なされていくよう、不断の努力の積み重ねが求められること。

(2)自然科学系常設展示物の改善の方向

① 展示替えのキーワード

展示替えに当たって、展示方法のキーワードを「見る・触れる・体験する・学ぶ」とし、展示事象が来館者の学習・体験活動に寄与し、親しみをもって知的探求心を触発するよう工夫を重ねます。

② 常設展示内容の範囲

地域博物館としての独自性の観点から、茅野市を中心とする八ヶ岳山麓とその周辺地域の自然科学系事象を主体とした展示内容とします。これに加え、

来館者の学習・体験活動を深める視点から一般的な自然科学系事象も補足展示します。

- 八ヶ岳とその山麓地域(扇状地・小泉山・大泉山)
- 守屋山と西山山地
- 霧ヶ峰・永明寺山・諏訪盆地
- 学習・体験活動の補助的な一般自然科学事象 等

③ 来館者の視点に立つ展示方法の改善

来館者は市内外からの子ども・教師・市民一般者と幅が広い。その来館者の視点に立って「見て触れて分かった、おもしろかった」と実感し体験でき、探求心を掻き立てる学びの場として機能するよう、次の点に留意した展示の工夫に努めます。

- 解説表記文は、分かり易く必要により漢字にはルビをふり、長すぎない
- 興味・関心を呼ぶ表記、キャラクターの活用
- 標本・ジオラマ・スライドの活用、図表の映像化
- 来館者が、自らの意志で調べ体験できるタッチパネルの導入
- 壁・床・天井等の有効活用による、立体的展示の工夫と回遊性の確保
- 総合的見方を可能にするため、他分野と関連づけた複合展示方法の導入
- テーマ性・ストーリー性のある展示の工夫
- 子どもが、主体的に「学び」を引き出す『ワークシート』の活用
- 館内展示物の学習から、野外の自然観察活動への動機づけ・意欲づけの工夫

(3) 常設展示物の分野別改善案の作成提示

前項までの、常設展示の今後のあり方と展示物の内容・展示方法改善の方向についての検討に基づき、開館当時からの常設展示物一つ一つの内容と展示方法を吟味し、分野別改善案の作成にあたりました。

① 改善案作成の観点

- 常設展示物の中で、引き続き活用するもの
- 改善改修したい展示物の内容とその展示方法
- 新たに加えたい展示物の内容とその展示方法

○新設したい施設と新たに購入したい機材

② 分野別改善案の作成提示

展示替え専門部会の検討で最も時間をかけたのは、地質・陸水・哺乳動物・昆虫・野鳥・植物の各分野の展示事象の内容・展示方法の具体的改善案作成でした。その結果について、「資料1」のとおり提案します。

そして今後、市民が関心をもつテーマや、新しい自然事象が見出された時点では、随時臨時的な展示コーナーを設置し、市民一般に情報提供を適宜行うなど、即応的で柔軟な対応が求められるものと考えます。

また、気象をはじめ物理・化学分野の展示については、上記分野別改善案には含まれていないので、今後検討され充足されることを願うものです。

(4) 博物館施設の拡充・増設の必要性

前項で提案した各分野別の具体的改善案の実現には、既存の常設展示スペースでは収まりきれないことが予測されます。提案された改善案の何を生かし、どれだけ具現化できるかの課題は重い。また、テーマや季節による展示替えの余裕スペース、収蔵資料や情報の公開を可能にする展示スペースの拡充が求められます。

さらに、基本構想で示されている教育普及事業実現への学習活動スペースと、今後増加が予想される収蔵品の管理・保全・活用等も含めて、現在の常設展示スペースと一体となる連絡可能な施設の拡充・増設が喫緊の課題と考えられます。

(5) 学芸員の配置と市民ボランティア制度導入の重要性

① 学芸員の配置とその業務

八ヶ岳総合博物館が、子どもや市民をはじめ来館者にとって、魅力ある学びの場として生かされ、本来の博物館活動の持続推進を可能にするためには、来館者の視点に立った展示内容の適宜改善を続け、来館者が展示事象と向き合いコミュニケーションが深められる支援をすることなど、学芸員の存在が極めて重要です。博物館に、学芸員あるいはそれを補える人的配置措置があるか否かが、展示物の可変性追求と、活動する博物館としての存在価値を決定づけるも

のと考えられます。

開館当時の基本構想においても、地質・陸水・気象関係で1名、動物・植物関係で1名、科学技術関係で1名の計3名の学芸員配置の必要性が明記されています。これら学芸員に求められる業務内容は、次のような例が挙げられます。

- 常設展示物の管理・運営
- 来館者への説明案内、館内学習・体験活動への支援
- 企画展の計画・運営
- 野外学習観察会の企画、野外学習やその体験活動への支援
- 博物館活動の情報発信・情報収集、地域の自然研究推進
- 収蔵品の管理・保全、活用方法の研究
- 市民ボランティアの養成指導・コーディネート、組織づくり

② 市民ボランティア制度導入の重要性

八ヶ岳総合博物館が、来館者の視点に立つ生涯学習の「学びの館」として、市民に親しまれ、持続的活動が推進されるためには、市民力を導入することが極めて重要です。市民力導入の有効性は、市民ボランティアやサポーターの持続的養成とその組織づくりのもとに、学芸員と市民とが一体になった八ヶ岳総合博物館の組織的機能発揮を可能にすることにあります。

とりわけ、年間を通して活動する市民ボランティア制度の設置や、活動別・領域別に適宜活動するサポーター組織の導入は、八ヶ岳総合博物館が地域の自然・文化と人々のくらしの接点をさぐり、市民が新しい活力を生み出す場としての活動を、将来に涉って発展させていく重要な鍵となるものと期待されます。

2 今後の茅野市における科学教育の振興はいかにあるべきか。

基本構想は、20余年の歳月を経た現在でも色あせることはありません。今回の答申では、八ヶ岳総合博物館設立当初の基本構想を継承しながら、公民協働などの社会的変化に対応して基本構想を発展させることとしました。結論的には、八ヶ岳総合博物館を茅野市の科学教育の振興の中心的役割を担う施設として充実、発展させることを提案します。

茅野市の科学教育の振興に際しては、学校教育における理科4分野（物理・化学・生物・地学）だけでなく、環境・エネルギー・医療・健康など、社会的要請を考慮しながら、幅広い分野を対象とする教育の場として博物館を位置づけ、科学教育センターなどの併設による科学の視点からアプローチする役割を八ヶ岳総合博物館に付加すべきであります。

(1) 性格について

①八ヶ岳総合博物館の名称を生かして、茅野市の科学教育振興の中心的役割を担う教育機関として位置づけます。そのためには、今までの地域博物館としての機能を活かし、小・中学生から高齢者までの幅広い世代が、広く科学に対する興味・関心、知的探究心等を高め、豊かな科学的素養を育成するための学び・体験・交流の場としての機能を持たせること。（前文に示した科学教育検討専門部会での視点1・3・5・6に対応して。以下「視点〇」と略します。）

②学校の授業では扱いにくい高度な観察・実験などを実施できる設備等の整備、教員の指導力向上のための実践機会の場としての整備など、八ヶ岳総合博物館が科学教育推進の拠点となることを目指し、より充実した学校教育と連携をすること。（視点3）

③八ヶ岳総合博物館の企画、運営は、今まで以上に、大学、NPO、企業、他の関連施設など、多様な主体を繋ぎ、連携して行うこと。（視点6）

(2) 事業について

①科学教育の振興に際しても、諏訪地方の自然教育の歴史を背景とした活動に心掛けること。（視点3・4）

- ②八ヶ岳総合博物館に関わる人材をさらに育成し、市民との協働で活動を展開すること。市民参加での調査研究活動については、これを継続的に行い、資料の収集・収蔵の充実を図ること。あわせて、その結果の発表の場の提供など、市民主体の活発な活動を育み、支援すること。(視点1・5)
- ③科学教育センターの併設により、正しい科学知識や正確な情報の提供を通じて、市民の科学技術リテラシー^{*3}を育み、多角的な視点で、市民の学習活動を支援する場とすること。(視点3)
- ④新学習指導要領で示された「観察・実験活動の充実」への対応の必要性を踏まえ、関係機関との連携のもと、科学学習の中核となる教員や講師などの指導者等の養成・研修を実施し、その資質能力及び指導力の向上を図ること。(視点3)
- ⑤基本構想でも触れているように茅野市全域が自然展示場であるという発想のもとに館内のみならず、館外での活発な活動の展開をさらに進めること。(視点1・6)
- ⑥全ての施設や組織の完成を待つことなく、現状の施設でできる企画展示や講演会、標本・資料や実験キット等の整備・貸し出し、出張実験等による学校授業の補助など、できるところから柔軟に取り組むことを提案します。(視点1・3)

(3) 組織について

- ①八ヶ岳総合博物館の専門職員として自然科学系の学芸員をできる限り多数配置すること。また、専門分野に従事する職員と館の運営を事務的に処理する職員構成が必要と考えます。学芸員の不足を補い、公民協働の発想を生かして、市民学芸員制度の新設を提案します。基本構想と資料2を添付します。基本構想の「将来的に望ましい組織の一例」を参照のこと。(視点1・2)
- ②八ヶ岳総合博物館は、現在茅野市の直営ですが、指定管理者制度の導入など、管理運営組織に係る様々な検討は不断に実行していくことが望まれます。(視点1)
- ③八ヶ岳総合博物館の企画・運営のために、公民協働による常設の企画・運

営委員会の設置を提案します。(視点5)

(4) 規模・必要施設について

八ヶ岳総合博物館は、基本構想の段階で、将来的な増設の可能性を配慮し、敷地面積は建物延べ床面積の3～4倍あることを確認した上で、以下の事項を述べます。

①科学教育センターに必要な施設は、既に基本構想においても、必要な施設として扱われているが、建設されることはありませんでした。今後は、より高度な実験や観察が行える機能を持つ実験・実習室、教室を備えた施設を新設すべきです。博物館資料の安全性の観点から現在の施設と離れた別棟での設置が望まれるが、展示本館との連絡が可能な建屋として増設することが望ましい。(視点1・3)

②八ヶ岳麓文芸館の一時的な設置に伴い、現在は特別展示室が基本構想に揚げられている本来の目的に使うことができません。また、八ヶ岳山麓の自然史以外の科学展示を行う空間も現状では生み出せないことから、特別展示室・科学展示室を新設する科学教育センターに取りこむことも一案です。空いたスペースはオープンスペースとし、展示スペースとしての活用を期待します。また、現在館内で行われている機織り機は、別棟として民家などを移築し、郷土の産業継承の実践例として収容、市民活動の支援の場として新設することを提案します。(視点3・4)

③茅野市内には茅野市立北部中学校に設置されている天体観測室がありますが、実際の観望会などの公開・運営は八ヶ岳総合博物館が行ってきました。今後は、管理上の課題を解決し、有効に施設を利用するためにもプラネタリウムなど天文教育施設を八ヶ岳総合博物館へ設置・充実させることが望ましい。茅野市立北部中学校の天体観測室については八ヶ岳総合博物館への移動も含めて天文教育施設の一元化を図ることが望まれます。(視点3)

④今後増加する自然系、考古学系資料の収蔵に対応した施設(資料研究室を含めて)を別棟(資料館あるいは収蔵庫)として計画すべきです。この際も展示本館との連絡が容易になるような設計が望まれます。(視点1)

⑤新設、増設施設の空間構成と必要な部屋については、基本構想ですでに提

案された諸施設（風土産業作業室や会議室、科学教室など）を参照し、別途具体的に検討してほしい。（視点3）

おわりに

茅野市博物館協議会専門部会では、茅野市の生涯学習の中核施設として、八ヶ岳総合博物館のこれまで果たしてきた役割や現状を確認するとともに、改めて展示替えや科学教育の振興について議論してきました。

茅野市民の期待に応えることができる「まちづくり」を進めるために、八ヶ岳総合博物館は誰もが、郷土の自然と人の営みを学ぶことのできる重要な教育機関であることも再確認しました。そのためには、市民の生涯学習活動を支え、風土を愛するための博物館として専門的な職員としての学芸員を確保、維持し、ヒトとヒト、ヒトとモノ、ヒトと風土を繋いでいかななくてはなりません。そのためにも改築、増設を含む八ヶ岳総合博物館の施設、組織の充実が強く望まれます。

この答申を踏まえて、公民協働のために職員の確保や財政的な裏付けを含めた総合博物館における基本計画が改めて策定される必要があります。さらに、その内容の実現にむけて、市長部局と八ヶ岳総合博物館との情報共有や連携が必須であると考えます。この答申を基に貴教育委員会が茅野市の生涯学習をより一層推進させるとともに、八ヶ岳総合博物館がこれまで以上に、茅野市民のみならず諏訪圏域の生涯学習に大きな役割を果たしていくことを期待するものです。

本答申においては、各用語について、主に以下のような意味で用いています。

*1 「科学教育」

自然科学に関する知識・態度を養う教育のこと。小・中・高校における理科教育、大学等における自然科学教育をいいます。

*2 「生涯学習」

生涯学習とは、学校において行われている学習のみならず、地域・社会で行われている学習をも含んだ包括的な概念で、「一人ひとりが健康で豊かな生活を営むことや、仕事に役立つ知識や技術を身に付けたり、生きがいのある充実した人生にするため、自分の意思に基づき、必要に応じて自分に適した手段や方法を選んで生涯を通じて行う学習活動」をいいます。

*3 「科学技術リテラシー」

科学技術に関する判断を支える基礎的素養をいいます。

展示替え専門部会開催経過

- 第1回 平成23年5月19日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・展示室を見学しての感想・問題点指摘
- 第2回 平成23年6月10日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・今後の博物館のあり方について
- 第3回 平成23年7月8日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・地域の博物館としてどう特徴を出すか
- 第4回 平成23年7月21日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・地域の博物館としてどう特徴を出すか
- 視察 平成23年8月4日 群馬県立自然史博物館（群馬県 富岡市）
佐久子ども未来館（長野県 佐久市）
- 第5回 平成23年8月22日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・研修視察の感想
・地域の博物館としてどう特徴を出すか
- 第6回 平成23年9月15日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・各分野からの第1次改善案の発表
- 代表者会議 平成23年9月29日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- 第7回 平成23年10月17日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・各分野からの提言の検討
- 第8回 平成23年11月14日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
・各分野からの第2次改善案の発表とまとめ
- 第9回 平成24年2月2日 茅野市教育委員会教育長室
(科学教育検討専門部会と合同)
・答申について

展示替え専門部会委員名簿

委員長	北澤 和男	学識経験者（地質）
副委員長	小池 春夫	学識経験者（地質）
	小口 徹	下諏訪町立下諏訪社中学校校長（地質）
	酒井 秋男	松本大学人間健康学部 スポーツ健康学科教授 （哺乳動物（小型哺乳類））
	下山 良平	茅野市立豊平小学校教諭（昆虫・両生類）
	白鳥 保美	茅野市立宮川小学校教頭（植物）
	関谷 圭史	箕輪町立箕輪西小学校長 （哺乳動物（大型哺乳類））
	滝井 暁子	学識経験者（哺乳動物）
	戸谷 省吾	茅野市立北部中学校教頭（野鳥）
	名取 克裕	富士見町立富士見中学校教諭（地質）
	名取 陽	学識経験者（植物）
	野澤 進之輔	茅野市青少年自然の森職員（野鳥）
	林 正敏	日本野鳥の会諏訪会長（野鳥）
	福田 勝男	茅野ミヤマシロチョウの会会長 （昆虫（チョウ類））
	溝口 紀泰	長野県南安曇農業高等学校教諭（哺乳動物）
	森川 一成	岡谷市教育委員会子ども総合相談センター長 （陸水）

科学教育検討専門部会開催経過

- 第1回 平成23年5月19日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- 第2回 平成23年6月7日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- ・各委員からの提言
- 第3回 平成23年7月5日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- ・先生方に理科を楽しいてもらうにはどうするか
- 第4回 平成23年7月20日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- ・先進地視察について
 - ・新しい教育センター構想について
- 視察 平成23年8月11日 日本科学未来館（東京都 江東区）
- 第5回 平成23年8月18日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- ・日本科学未来館視察について
 - ・科学教育センターと博物館の関わりについて
- 第6回 平成23年9月9日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- ・科学教育センターのハード面について
 - ・科学教育センターの組織について
- 第7回 平成23年10月18日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- ・科学教育センターのハード面について
 - ・科学教育センターの組織について
- 第8回 平成24年1月13日 茅野市八ヶ岳総合博物館研究室
- ・答申について
- 第9回 平成24年2月2日 茅野市教育委員会教育長室
- （展示替え検討専門部会と合同）
- ・答申について

科学教育検討専門部会委員名簿

委員長	沖野 外輝夫	信州大学名誉教授（陸水・プランクトン）
副委員長	浜 篤	学識経験者（陸水・珪藻）
	飯島 敏雄	学識経験者（陸水・珪藻）
	石森 秀明	諏訪東京理科大学生涯学習センター長 （産学連携）
	岡本 力	茅野市立湖東小学校校長（物理）
	北澤 和男	学識経験者（地質）
	小松 正夫	茅野市教育委員会学校教育課 教育支援指導主事（植物）
	名取 昇一	学識経験者（動物）
	花里 孝幸	信州大学 山岳科学総合研究所 山地水環境教 育研究センター教授（陸水・プランクトン）
	三村 昌弘	富士見町立富士見中学校校長（植物）
	両角 英晴	日本野鳥の会諏訪幹事（天文・野鳥）
	若宮 崇令	川崎市八ヶ岳少年自然の家職員（天文）